

2022、3、1

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

未来を生きる子どもたちに  
引き継ぐものは



「国内では、新型コロナウイルスの感染拡大の収束状況が続いており…（略）。国内で感染が大きく拡がらないことを願いつつ…（略）」「長期にわたって活動が止まったときの生活を思い出すと…（略）」「活動できることが当たり前ではなく、活動できる時間が有限であることを実感したと思います。その時間をこれまで以上に大切にしていきたいと思います」

これは、1月に出した『たより』の一節です。その矢先に活動休止の判断となりました。

私たちの生活環境は地球規模で異常をきたし始めているのではないかと感じているのは、私だけではないと思います。ふだんは日常の忙しさに追われて、そんなことを深く考えることはないでしょう。それに、どちらかという、望まない方向に進んでいることだし、できれば目を背けたい、考えたくないという思いがはたらいて、ふだんこの問題を最優先に考えて、生活を送っている人は少ないのではないかと思います（仕事から日常的にこのような問題と向き合っている人は別にして）。それでも、「できることから」ということで、できるだけごみを出さないようにしているとか、自宅でごみを選別して、リサイクル物の収集場に持ち込んでいるなど、工夫や努力をされているところも少なくないと思います。

- 2022年に入ってから新型コロナウイルス感染の急拡大が続いています。
- 1月22日（土）午前1時8分頃、日向灘を震源とする最大震度5（マグニチュード6.6）の地震が発生しました。大分・宮崎を中心に九州・四国・中国地方に及び、直方市でも震度3の揺れがありました。
- 1月19日（木）トンガ沖海底火山の大規模噴火が発生し、その影響による津波が太平洋側の国、地域の海岸に押し寄せました。

私たちは、ここ数年の間に、多くの災害・被害に遭遇してきました。今に近い方から大きいものだけひろっても、以下のようなものがあります。

- 2017年7月5日から8日にかけて九州北部豪雨が発生し、大きな被害が出ました。その後も毎年のように福岡県南部地域は集中豪雨で浸水被害が起きています。
- 2016年4月14日の熊本地震。大学生を含む多くの命が奪われました。国宝・重要文化財

にもなっている熊本城も甚大な被害を受けました。の大分県や福岡県南部にも被害が発生しました。

- 🇯🇵 2011年3月11日に、東日本大震災で地震、津波、原発事故を経験しています。
- 🇯🇵 2005年3月20日には、福岡県西方沖地震を経験しています。このときは、直方クラブで国立夜須少年自然の家に居て、私は、ちょうど管理等の階段を上がっているときに揺れを体験しました。施設のテレビで報道に目を止めたのを、今も覚えています。
- 🇯🇵 1995年1月17日には、阪神・淡路大震災で、地震、建造物の倒壊、火事を経験していません。

地球規模の災害が続いていますが、すべてつながっているとも言われています。これらは地続きの現象ではないかと。また、「自然災害」とみられがちですが、元をたせば「人災」ではないかと。少なくとも、人間が創り出した文明が進行を加速させていることは間違いないでしょう。

以下は、NHKで流されているSDGsに関する啓発情報です。

2001年から2014年にかけて、世界ではおよそ170種が絶滅したと言われる。国連は、対策を取らなければ、約100万種の動植物が数十年で絶滅すると警告している」(MEWE 2分で爆速SDGs/NHK)

SDGsとは、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されていて、「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみならず2030年までに解決していこう」という計画・目標のことです。「持続可能な」とは、人間の活動が自然環境に悪影響を与えず、改善する動きを長期間に渡って実施し続けられる、ということの意味します。

ここまで書いていた矢先、今度はさらにとんでもないことが地球上で起きてしまいました。

2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻をはじめました。この時代に、私たちはテレビ画面で、とんでもない光景を見せられています。地下で、砲撃におびえふるえる子どもの姿に、無事であってほしいと祈るしかない、むなしさ、せつなさが胸をしめつけます。私たちおとなは、子どもたちに何を残しているのでしょうか。子どもたちの命を守り、この苦境をどうのりこえていけばいいのでしょうか。

この地球上のすべての人たちの命が守られ、安全に平和に過ごすことのできる地球環境でなければ、今までのように、自分の好きな活動をすることもできないということが、ここ数年の環境の変化やここ数日に起きている惨状によって痛感させられますね。バスケットに直接関係することではありませんが、環境の変化は、バスケットの活動にも、子どもたちの育ちにも確実に影響を及ぼします。とてつもなく大きな問題ですが、子どもたちも私たちおとなも、できることを考え行動していくことが求められていますね。

